

## 2003年度環境総研講座

2003年度大阪信愛女学院短期大学公開講座（城東区、鶴見区共催）の内、環境総研講座として3回の公開講座を開催しました。

第1回は「環境と健康－環境中の化学物質の危険性－」について国際医薬品臨床開発研究所理事 菊池康基氏に、第2回は「淀川の水環境を考える－水生生物の視点から－」について環境省希少野生生物種保存推進委員 河合典彦氏に、第3回は「日本のウミガメと砂浜、そして人間との関わり合い」について日本ウミガメ協議会会長 亀崎直樹氏にご講演いただきました。いずれも環境と人間および社会に関わる現代的問題として興味深い内容の講演でした。第2回と第3回の講演内容については、講演に関連した内容のご寄稿いただき、本誌前号（No.2, 2003）に掲載しておりますので、ここでは、第1回の講演内容について簡単に振り返ってみることにします。

### 第1回 環境と健康 － 環境中の化学物質の危険性 －

講師の菊池康基氏は、医薬品の安全性、とくに発がんに関わりが深い遺伝毒性の重要性をいち早く認識され、試験法の開発、リスク評価などに我が国で先駆的役割を果たされ、日本環境変異原学会功労賞を受賞されました。本講演では、環境中の化学物質の危険性、とくに健康障害や生態系の破壊等の面で問題となっている点について、正しい認識と正しい対処の必要性をわかりやすくお話いただきました。

最初に、生命と環境の関わり合いの歴史、とくに環境の毒性的影響とそれに対する適応について話されました。紫外線との戦い（紫外線はDNAを損傷するが、損傷したDNAを修復する機構を生み出した）、酸素の効果的利用（生命は最初酸素を必要とせず、むしろ強力な毒であったが、呼吸というエネルギー生産のための酸素を利用する仕組みを備え急激な発展を遂げた）、化学物質との関わり（解毒システムの発達）など。

次に、毒の概念と安全についての考え方（100%の安全は存在しない）、人工化学物質と天然物質の毒性（両者に特別な違いはない）、薬の効果と副作用について（用い方により薬にも毒にもなる）、化粧品・食品添加物・農薬・遺伝子組換え植物と危険性（必ずしも正しく認識されていない）、安全性についての一般的な考え方と問題について話されました。

最後に、寺田寅彦氏の名言「ものをこわがらなすぎたり、こわがりすぎたりするのはやさしいが、正當にこわがることはなかなかむつかしいことだと思われた」で締めくくられました。



エコフェスタでのゴミステーション

## 2003年度エコフェスタ

今年度のエコフェスタは、11月8日（土）と9日（日）に、本学の学園祭（楓祭）との同時開催、学生会楓祭実行委員会との共催で実施しました。

講演会として、園芸療法士の寺田祐美子氏の「心と庭－鉢から発するユートピア－」、幼きイエズス修道会のシスター小井手恵美子氏の「今、私にできること－カンボジアの体験をとおして－」、NPO法人日本ウミガメ協議会会長の亀崎直樹氏の「日本のウミガメと砂浜、そして人間との関わり合い」を開催しました。また、桂福車さんによる環境落語「食の法則」で楽しみながら環境問題を考えてもらう催しや元大阪テクノホルティ－園芸専門学校教授の太田周作氏によるガーデニング体験講座「癒しの『こけ玉』づくり」、昨年引き続き大阪市環境学習リーダー会による「環境家計簿講座」を実施しました。パネル展示として「淀川水系イタセンパラ研究会」「日本ウミガメ協議会」「国際ワークキャンプセンター」「生駒いいもり里山サポーターズ」に参加いただきました。農民組合大阪府連合会大阪産直センターから安全で新鮮な野菜の直販も昨年に続きありました。

新たな試みとして、（財）千里リサイクルプラザ研究所の市民研究員の方たちが普及・啓発に取り組んでいる体験型環境学習「イベントのごみゼロ大作戦」を試みました。同研究員の方たちの実験で、リユース（できるだけ再使用できる食器の使用）とリデュース（食器の持参を呼びかける）を組み合わせると、95%以上が資源になる（リサイクル）といわれています。

手順は、①ゴミ箱を撤去、②リサイクルコーナーを設ける、③リサイクルコーナーに机を置き、その上に回収箱を並べ表示をする、④飲んだり食べたりした人に、自分で分別して回収箱に入れてもらう、⑤コーナーには必ず担当者が立ち、分別の仕方など、声かけを行う、⑥回収箱が一杯になったら、担当者が別の袋に移す、⑦分別したものを洗浄し、リサイクルルートにのせる、というものでした。学生たちと同研究所で、直接お話をうかがい、資料をいただき、それらを参考に計画しました。今回初めての試みなので、無理のない緩やかな実施を試みました。そのため、①のゴミ箱の撤去を実施せず、リデュースも呼びかけませんでした。会場入り口に「ごみゼロステーション」を設け、分別回収箱を缶・ペットボトル・食べ残し桶・紙コップ・トレイ・竹串・割り箸・その他燃えるゴミ・その他燃えないゴミの9つに分類し設置し、当番の学生が交代で協力を呼びかけました。缶2個、ペットボトル9個、紙コップ148個、紙皿32枚、白いPSPトレイ65枚、竹串529本、割り箸418本（A4用紙約70枚分相当）の回収ができました。